

令和六年度学力検査問題

国語①（人文学部）前期日程

（問題紙 一〇二十二ページ 別紙解答用紙枚数 一枚）

解答時間 一二〇分

注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 二、本冊子のページ数は右に示したとおりである。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがある場合は申し出ること。
- 三、解答はすべて別紙解答用紙のそれぞれの解答欄に記入すること。
- 四、解答用紙の指定された欄（二箇所）に、忘れずに本学の受験番号を記入すること。
- 五、試験場内で配付された問題冊子は試験終了後持ち帰ること。

一

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。（＊は本文の後に注があることを示す。）

著作権の関係上公表しない

著作権の關係上公表しない

著作権の関係上公表しない

著作権の関係上公表しない

著作権の関係上公表しない

（戸谷洋志『未来倫理』より。出題に際し原文を一部改めた。）

〔注〕

*カール・マルクスⅡドイツの哲学者、経済学者（一八一八―一八八三年）。

*マルティン・ハイデガーⅡドイツの哲学者（一八八九―一九七六年）。

*未来倫理Ⅱ現在世代が未来世代に対する倫理的配慮という責任について、どのように考え、実践したらよいかを考える、倫理学の一領域。

*ゲノム編集Ⅱ人間のDNAの遺伝情報のうち、特定の塩基配列を変化させて、細胞の性質を変える技術。

問一

傍線部①「遅刻」が社会における許されない悪徳として浸透するようになった」と筆者が考える理由として適切なものを、次の選択肢の中から二つ選んで、記号で答えよ。

ア 給料が時給で換算されるようになったから。

イ 資本主義が成立したから。

ウ 戦争がなくなったから。

エ 鉄道が広く利用されるようになったから。

オ 都会に住むようになったから。

カ 日が沈むと帰宅するようになったから。

キ 分刻みで行動するようになったから。

問二

傍線部②に「技術決定論と社会決定論は真つ向から対立する」とあるが、双方に共通する考え方を示した箇所を本文中から二〇字で抜き出して記せ。

問三 傍線部③「両者は相互に連関し合い、互いを条件づける」とはどういうことか。ロングアイランドの橋の例を使って、五〇字以内で説明せよ。

問四 傍線部④に「二つのテクノロジーについて考えるのだとしても、技術と社会の関係をどのように捉えるのかによって、発見され得る課題は異なってくる」とあるが、本文で挙げられている三つの立場それぞれの違いがわかるように、筆者が示すゲノム編集に関する未来倫理が取り組むべき具体的な事例について、一〇〇字以内で述べよ。

問五

a

ゝ

d

のカタカナを漢字に改めよ。

二

次の文章は、道尾秀介の小説「やさしい風の道」の一部である。ある日、章也しょうやはバスに乗ってどこかへ向かっている。章也は停留所で降りると、姉の翔子しょうこと話しながら道を歩き、やがて目的の家を見つける。以下の文章を読んで、後の設問に答えよ。

著作権の関係上公表しない

著作権の
関係上公表
しない

著作権の關係上公表しない

著作権の関係上公表しない

著作権の
関係上
公表し
ない

著作権の関係上公表しない

（道尾秀介「やさしい風の道」より。出題に際し文章の一部を改めた。）

問一

傍線部①に「しかし母だけは、じつと前の席の背もたれを見つめて動かなかった」とあるが、それはなぜか。次の選択肢の中から最も適切なものを選んで、記号で答えよ。

ア 窓の外の景色を見慣れていて、興味がなかったから。

イ 窓の外の風と土埃に気がつかなかったから。

ウ 窓の外に見たくないものがあることを知っていたから。

エ 土埃でもものの形が見えないのでは、見ても意味がないと思ったから。

オ 興味本位で窓の外を見るのは、子供のしつけに良くないと思ったから。

問二

空欄

X

Y

に入る最も適当な語句を、本文の語句を参考にして記せ。

問三 傍線部②に「不平顔で立っている本人」とあるが、「本人」とは誰のことで、何に對して、どのように思っているのか、四〇字以内で説明せよ。

問四 傍線部③に「急に、姉がさういふ顔になつてしまふかもしれない」とあるが、なぜそう思つたのだと考えられるか。翔子がどのような存在であるかを明らかにした上で、六〇字以内で述べよ。

三

次の文章は『源氏物語』の一節である。鬚黒大将ひげくろの正妻である北の方は長らく物の怪もののけにより病をわずらい、正気を保ったり、保つことができなかったり、不安定な状態である。鬚黒大将との仲は疎遠になっている。鬚黒大将は日暮れになったので最近通いはじめた玉鬢たまかすらのもとに出かけたかったが、折りからの雪と、正気を保って鬚黒大将に應對する北の方を見て、出かけるのを迷っていた。北の方は出発を促し、鬚黒大将の装束に香をたきしめる。この文章はその後の場面である。これを読んで、後の設問に答えよ。（*は本文の後に注があることを示す。）

著作権の関係上公表しない

〔注〕

* 正身Ⅱ当の北の方。

* 大きな籠の下なりつる火取Ⅱ衣服をかぶせた伏籠の下においてある香炉。

* 殿Ⅱ鬚黒大将。

* 沃かけⅡ注いであびせかけ。

* うつし心Ⅱ正気。理性のある心。

* きよらを尽くしたまふわたりⅡ玉鬘の住む六条院。

* 加持Ⅱ物の怪を退散させるための祈祷。

* かしこへⅡ鬚黒大将が玉鬘のもとへ。

* はべしⅡ「はべりし」の省略形。

* きすくにⅡきまじめに。

* 雪もよにⅡ「雪もよよに」の擬態語「よよ」がつづまったもの。雪のはげしく降る中に。

* かたしきの袖Ⅱ片一方だけを敷いた袖。独り寝の状態。

問一

傍線部①「あさましきに」、傍線部②「さながら」、傍線部④「やすらひはべしに」を、それぞれ現代語訳せよ。

問二

傍線部③「昨夜にはかに消え入る人のはべし」とあるが、実際にはどのようなことが起きたのか説明せよ。

問三 鬚黒大将は玉鬘に歌で何を訴えたかったのか、歌の内容を踏まえた上で説明せよ。

問四 次の文学作品について、『源氏物語』よりあとに成立した作品を二つ選んでその記号を記せ。

ア 『伊勢物語』

イ 『宇治拾遺物語』

ウ 『宇津保物語』

エ 『落窪物語』

オ 『曾我物語』

カ 『竹取物語』

四

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。（＊は本文の後に注があることを示す。また、設問の都合で送り仮名を省いたところがある。）

著作権の関係上公表しない

（明 高啓「贈医師何子才序」より）

〔注〕

＊修Ⅱ歴史書を編集する。

＊『元史』Ⅱ元の正史。全二百十卷。明の宋濂らが勅命を受けて編集した。

＊故実Ⅱむかしあったことから。故事。

＊郷党Ⅱ地域社会。

＊世教Ⅱ世において正当とされる思想。ここでは儒家の思想を指す。

＊昆弟Ⅱ兄弟。

＊君子Ⅱ徳の高い人。ここでは歴史書を編集する人を指す。

＊卓卓Ⅱ凡俗から高く抜きんでているさま。

問一

波線部「非甚難能者、夫何足書」を現代語訳せよ。（文末の引用の「と」は不要。）

問二

破線部「宜与之」をすべてひらがなで読み下せ。（現代仮名遣いでもよい。）

問三

二重傍線部「采其尤卓卓者為著於篇」とあるが、筆者がそのようなにした理由を、本文の表現を踏まえて説明せよ。